

---

## 平成 31 年度 交通に関する川内地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 24 日（水） 10:00～11:30

場 所：サンライフ萩

事務局：萩市商工振興課、日本工営株

ご参加：住民の皆様 15 名



### 1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

### 2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

### 3. 議事

(1) 資料 1 「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」

資料 2、3 「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」

事務局：資料 1、2、3 を説明（省略）

意見交換：

参加者：今回の説明会の趣旨は、あくまで調査結果の報告ということか。資料 3 の P26 は具体的な部分が見えない。まあ一バスは一方向周りだが、両方向回りであれば利便性が向上すると思う。周辺部の方は運賃負担が大きい。山口市では高齢者を対象に大幅に運賃負担を軽減する制度があると聞くが、萩市でも導入はできないか。ただ、萩市がしっかり対応し、事業者が困らない様にすべきである。

事務局：ご説明したとおり、現状の課題を踏まえ、将来像として市民の方に密着した利用しやすいネットワークを作りたいという趣旨である。具体的な施策はこれからということになる。説明会の場で生の声を頂いて計画を策定していく。

まあ一バスについては、地域要望や等間隔運行という利便性の面を含めて検討していきたい。両方向回りはもっともな話で、観光客にとっても逆回りがあった方がいいという話も聞くし、住民からも同様のことを聞く。利便性を考えていく。

山口市は福祉施策として 70 歳以上は 100 円で移動できるため、旭地域などの山口市が生活圏域の方々からは、かなり要望を頂いた。福祉の観点から、市の財政事情を踏まえて、利用者負担の見直しを考えたい。片道 1,000 円かかるような場所は、

---

出かけやすい環境を作って高齢者支援を、という考え方がある。3つの視点の中で頂いた意見を検討したい。

参加者：具体的施策が出来たら、また説明会があるのか。

事務局：各地区の住民代表の方も参加する交通会議の場で素案を叩き、パブリックコメントで広く意見を伺おうと考えている。

参加者：まあいーるバスは、以前のルート変更で廃止となった地域がある（弘法寺の南側のルート）。病院が多い地域であり不便を感じている人もいると思うが、等間隔運行でなくともいいのではないか。

事務局：利便性を考えた中で、路線を検討したい。また、頂いたご意見もあわせて検討していく。

参加者：高校生や大学生が山口市内に出ていくのにお金がかかっていると思う。学生にとっては高いので親が送迎することになる。

萩市で、何かイベントが実施され、市外から学生を集客する際、移動に対する負担軽減策はないだろうか。

また、列車の本数が少ないという意見が紹介された。駅周辺では、時間をつぶす場所がない。特に、夜間の列車が無い時間帯の増便を検討いただきたい。

事務局：高校生も含めて、自ら移動手段を持たない方の視点で考えている。貴重なご意見ありがとうございます。JRについては、以前から便数含めて要望していて、現状は難しいが引き続き要望していく。須佐地域や田万川地域の高校生のほとんどはJR利用なので、引き続き要望していく。

参加者：考え方の確認をしたい。人口減少が進んで、将来は山口県の山陰側は半減以下になると思うが、その視点で公共交通の今後の考え方を教えてほしい。

事務局：高齢化が進んで、周辺部は50%を超えた高齢化率となっている。そういう方々の移動手段を確保したい。ただ、便数を増加させるのは難しいが、持続可能なネットワークを考える上で、事業者や行政にも限界がある。自宅から目的地までどのように行くかということを考えて際に、住民の方も含め協働した形で地域の足を確保したい。

現状を踏まえた利用実態を考え、ダイヤやルートの検討など運行形態を細かく見直していきたい。人口減少が進んでも移動手段を確保したいということ。

国でも、交通事業者が公共交通を担うべきという前提のもと、過疎地域・交通空白地では自治会やNPO法人などが自家用有償運送も可能な仕組みになってきている。本年12月に計画が出来たらすぐ変わるわけではなく、出来るところから実施していきたい。

計画の中では、まあいーるバスの今後の方向性を示すが、実施については、出来ることから年次計画的に実施していくので、12月にすべてを実施することは難しい。

参加者：市では公共交通に対してもっと予算をかけてでもやっていく方向なのか、それとも予算的に制約があるということなのか。何かをあきらめて、その代わりにデマンドだとか、どのような考え方なのか。

事務局：路線バスがいいのか、代替手段がいいのかは検討する。持続可能という視点で考えたい。公共交通に対して、萩市の現状は、年間1億5千万円程度を負担しているが、効果的・効率的という観点で考えたい。

やたらに予算をつぎ込むのは難しいので、目的に沿った、利用しやすい公共交通体系づくりに向けて、様々な手段を考えていきたい。財政的な調整は政策的な判断となるため、この場では申し上げづらいが、市の判断として行っていきたい。

参加者：萩市の企業、事業所の職員が通勤する場合の自家用車の使用と公共交通の使用の割合はどの程度か。市職員が出勤に公共交通を使っているのであれば良い。通勤に公共交通を使うという大きな宣言をするといいのではないか。利用者数低迷の中で、

---

---

利用促進のために半ば強制的なことができないか。

また、高校生のアンケート回答率が高いが、通院の方からのアンケート回答は個別には出ていないと思う。通院者は公共交通を使っていると思うが、その部分の掘り下げが出来ていないのではないかと。通院されている方のご意見を掘り下げていかなければ、具体的な対策にならないのではないかと。観光客も同じで、本当にまあるバスを利用したいのかも含めて、12月の計画策定に間に合うのであれば検討願いたい。

事務局：利用促進の観点について、環境の観点も含めてだと思うが、現状は車社会である。ただ、免許を返納した時に8割の方は公共交通を利用したいというアンケート結果が出ており、しっかりと足を確保する必要があると考えている。利用促進の観点で利用者負担軽減のことも考えていきたい。利用促進についてはしっかり考えていきたい。

アンケートの分析結果については、先程、ご説明した概要のとおりで、アンケートでは利用目的別の移動手段を尋ねており、通院の割合もつかんでいる。まあるバスは、通院が2~3割、買い物が3割半、観光が1割半である。

市民病院の通院者へのヒヤリングについては、検討したい。

観光客については、インバウンドが盛り上がっている中で、市内の観光地点をつなぐ移動手段が必要という観点で計画を考えたい。地域の足だけでなく、地域間を結ぶ既存の公共交通を含めて、観光施策と連携しながら取り組みたい。

参加者：病院によっては週2回送迎している病院もある。買い物についても全ての時間ではなく、時間帯限定で、シャトルバスのような形で目的別の交通手段を考えてほしいと思ったこともある。

事務局：イベントでは目的がはっきりしているのでシャトルバスもある。日常的にはニーズも様々であるため、シャトルバスとはいかないが、出来るだけニーズに即した形を考えたい。

参加者：持続可能という部分は総論では賛成であるが、アンケートの回答は、全ての回答者が自分サイドのニーズで答えている。受益者ニーズは際限がないと思う。サービスのレベルが高ければ高い方が良いというのが人間の本質の中で、事業者サイドは難しいと思うが、サービスにはコストがかかるという視点が抜けていると思う。市民の方がどこまでコストのことを知っているか分からない。コストとサービスのバランスを考えてもらいたい。ここまでしか予算が無いのでここまでしかできないということを示すことも必要ではないか。

住民主体の交通に対して、行政がアドバイスを積極的にしてほしいし、自助だけでは難しいが、共助の仕組みを考えるべきである。

事務局：おっしゃる通りで、市の補助金がどの程度出ているか、路線ごとに今回の資料で示した。交通事業者も行政も手一杯の中で、住民主体の新たな公共交通も考えなければ難しい状況だと思っている。

サービスとコストのバランスは大きな課題である。コストが大きくなると自治体は持たなくなる。しっかりとメリハリをつけ見極めて、新たな手法を見つけていきたい。

また、行政が公共交通をやると限界がある。隣の集落に行きたいというニーズに行政が主体の公共交通では応えられないが、地区社協などでは、少しでも応えられる仕組みができないか検討されている。地域内のコミュニティの中で解決を模索している地域もある。自宅からバス停までの足の確保なども議論されている状況である。住民を含めて協働で考えたい。ただ、地域主体の移動手段は、受け皿、担い手の問題もある。すぐには難しいが、各地区でこのような説明をさせて頂いている。地域の中で議論して頂き、取組みが出てきたら、行政も支援できる。住民の高齢化に対す

---

---

るニーズを考えると様々な交通体系を考えなければ難しいと思っている。

なお、平成30年度は路線バスの維持だけで、萩市が1億2千万円、コミュニティバスを含めると1億7千万円負担している。その他離島航路の負担などもある。

参加者：まあーるバスは大回りであるが、小回りで、例えば15分程度で一定範囲を回るものを4回、つまり15分×4カ所を回るなど、予算をかけずに見直す方法もあるのではないか。

また、バスセンターと明倫センターとがあるが、集約は考えていないのか。それから、萩駅の乗り場は、防長バスの乗り場とまあーるバスの乗り場が分かれていて戸惑った。同じにできないか。

事務局：まあーるバスに関しては様々な観点から考えたい。結節点の件はおっしゃる通りで、どこを結節点に位置付けるかはしっかり検討したい。幹線と支線の役割分担を考えたい。

参加者：意見ではないが、説明会の日程について、たくさんの意見をもらいたいのなら、夜や土日に設定すべきではないか。工夫をしてもらえればと思う。意見を言いたいけど言えないという方もいると思うので、検討いただきたい。

事務局：利用者のご意見を聞きたかったため、高齢者が参加しやすい平日の昼間を選んだ。周知については、広報のほか、防災メールや各地区行政推進員に周知依頼をお願いしたが、萩地区は中心部でありご迷惑をおかけした部分もあるかもしれない。

#### 4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上